

世界の TOP3 の 2021 年度 (1-12 月期) 決算 その 1

- 火曜日 - 22 月 2022

塗料製造業の世界 TOP3 の 2021 年度決算が 2 月上旬に発表されていました。今日から 3 日間にわたり 1 社ずつ簡単にご紹介することになります。順番は日本円に換算した売上金額の多い順にご紹介します。最初は Sherwin-Williams です。同社は塗料だけでなく、塗装用具も販売していますので純粋に塗料の売上だけではないのですが、残念ながら内訳は不明ですので、仮に暫定 1 位としてご紹介させていただきますことにはなります。まずは第 4 四半期および通年の売上と利益の一覧表を示します。詳細は下記 URL をご参照ください。

https://s2.q4cdn.com/918177852/files/doc_presentations/2021/08/2021-Sherwin-Williams-Investor-Presentation.pdf

Sherwin-Williams の第 4 四半期は、原材料の高騰をうけ厳しい数字が並んでいます。売上こそ前年比で微増ですが、税引き前利益は前年比で大幅減となりました。通年でも同様で売上前年比が微増ですが、地引前利益前年比は微減となりました。売上が回復した第 2、第 3 四半期の貯金をもってしても通年で前年並みの税引き前利益を確保することができませんでした。通年での売上高は 199 億ドルですので、約 2 兆 3000 億円 (1\$ ≒ 115 円) となります。

Sherwin Williamsの2021年第4四半期及び通年業績 (単位百万\$)

	4Qのみ (10-12月)			通年 (1-12月)		
	2021年	2020年	増減%	2021年	2020年	増減%
全社	2021年	2020年	増減%	2021年	2020年	増減%
売上	4762.1	4488.8	6.1%	19944.6	18361.7	8.6%
税引前利益	308.9	503.9	-38.7%	2248.6	2519.2	-10.8%
アメリカG	2021年	2020年	増減%	2021年	2020年	増減%
売上	2653.5	2575.7	3.0%	11217.0	10383.2	8.0%
部門利益	400.3	558.7	-28.4%	2239.1	2294.1	-2.4%
消費者Br-G	2021年	2020年	増減%	2021年	2020年	増減%
売上	565.3	612.8	-7.8%	2721.6	3053.4	-10.9%
部門利益	16.1	60.4	-73.4%	358.4	579.6	-38.2%
機能性塗料G	2021年	2020年	増減%	2021年	2020年	増減%
売上	1542.5	1299.7	18.7%	6003.8	4922.4	22.0%
部門利益	87.2	133.7	-34.8%	486.2	500.1	-2.8%

アメリカG: 北南米のS.W直営店、
消費者Br-G: その他建築用ブランド、
機能性塗料G: 旧バルスパー

Sherwin Williamsの2021年第4四半期
及び通年業績に対するコメント

通年のコメント

原材料の入手困難さが数%の負のインパクト
原材料価格高騰と流通の非効率性で収益悪化
これを緩和するため値上げを実施
販管費比率は減少、戦略的投資は継続するもコストは管理

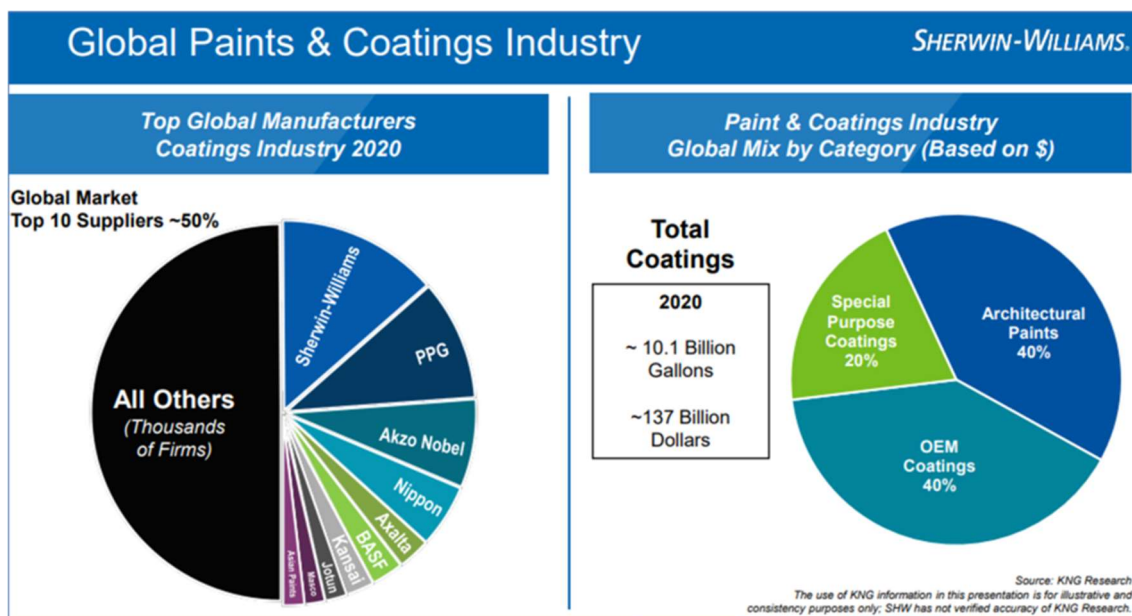
4Qコメント

原材料の入手困難さが10%近くの負のインパクト
建築塗装と工業末端市場の需要低迷
需要低迷、原材料価格高騰と流通の非効率性で収益悪化
これを緩和するため値上げを実施
売上減に伴い販管費減

部門別では、南北アメリカに存在する直営店からなるアメリカGはさすがに強く、部門利益の前年比も微減に留めていますが、自社ブランド以外の汎用品からなる消費者ブランドGは第 4 四半期、通年とも売上自体が前年比微減、部門利益は前年比大幅減でした。旧バルスパーからなる機能性塗料Gは、売上を前年からかなり伸ばしていますが、部門利益としては第 4 四半期が大幅減、通年が微減となりました。

これらの数字に対するコメントは、表の右に示した通りですが、通年では原材料の入手難、価格高騰が要因として挙げられ、第 4 四半期ではこれらに加え、建築、工業の需要低迷が要因として挙げられています。

Sherwin-Williams 社は、毎回世界の TOP10 のシェアと塗料の需要別内訳を決算資料に掲載していますので、今回もそれをご紹介します。



左図が世界の TOP10 企業とそのシェアです。この図で注目したいのは、TOP10 で世界の 50%を占めると書いている点です。TOP10 の顔ぶれは RPM(接着剤や防水材の比率が高い)が含まれていない点を除けば、7 月に発表される Coatings World 誌のレポートとほぼ一致しているのではないかと思います。Coatings World 誌のランキングでは全体数量が示されませんので比較ができませんが、いずれにしても TOP10 社で大きなシェアを持っていることだけは間違いありません。

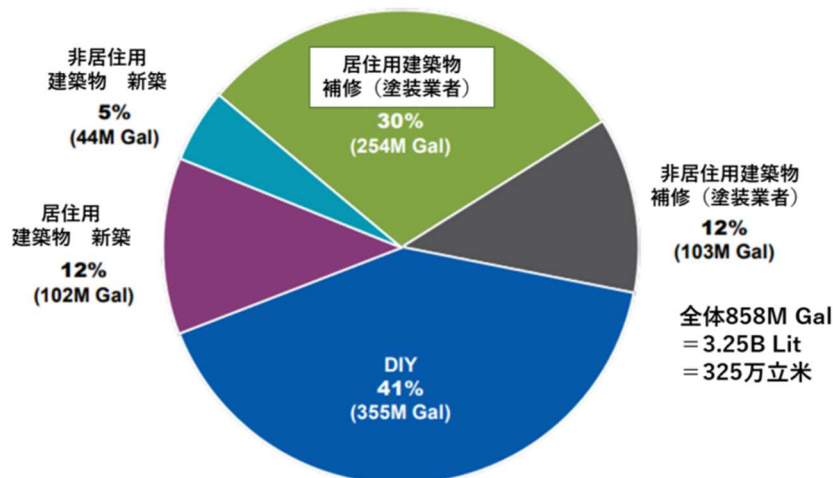
右図は、世界の需要別の売上です。建築が 40%、新製品用塗料が 40%、特殊塗料が 20%という内訳ですが、注目するポイントは全体の量と金額で、数量は換算すると 3,820 万立方メートル(比重 1.2 とすると 4,587 万トン)、金額は日本円で 15 兆 7600 億円ほどになります。感覚的にはおおむね妥当なところと感ずります。この Data Source は KNG Research となっていますが、Sherwin Williams はこの数字について検証していないとしています。

次にアメリカの建築市場について2つの図をご紹介します。一つ目は建築塗料の内訳です。

最も多いのが DIY で 41%、次いで塗装業者による居住用建築物の補修が 31%、次いで塗装業者による非居住建築物の補修が 12%とプロによる補修が上位に並び、新築をあわせて 17%(居住用 12%、非居住用が 5%)となっています。数量は 325 万立方メートルで比重 1.2 をかけると 390 万トンとなります。このグラフのタイトルの英語表記では「US Architectural Paint Industry」とありますので、アメリカのみの消費量ではないかと思われます。さすが建築塗料大国です。

アメリカの建築塗料市場

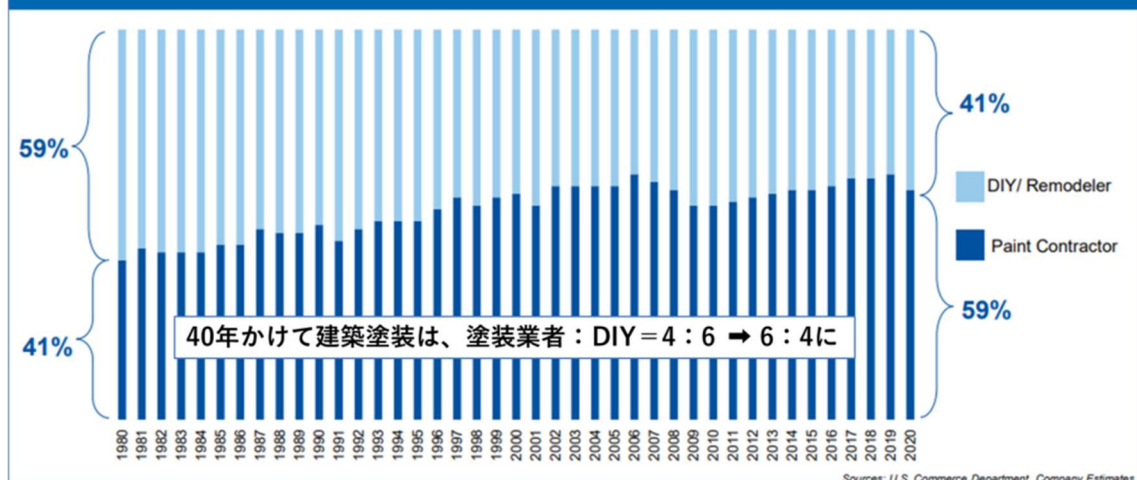
SHERWIN-WILLIAMS.



Sources: ACA, Department of Commerce, Dodge Data & Analytics, & Company Estimates

日本人から見ると DIY が 41%もあると感じられるかもしれませんが、実はこの DIY は年々減少傾向にあります。

DIY → Contractor Shift Expected to Continue in U.S. & Canada SHERWIN-WILLIAMS.



Sources: U.S. Commerce Department, Company Estimates

この図は 1980 年以降のアメリカとカナダにおける DIY と塗装業者の割合の比率を表したのですが、40 年間で比率が逆転しており、かつては DIY が 6 割塗装業者 4 割だったのが、今や DIY 4 割塗装業者 6 割になりました。この傾向はまだ続くとコメントされていました。

以上が Sherwin-Williams の決算内容および私が興味を持った市場情報についてご紹介しました。原材料高騰が Sherwin-Williams にとっても大きな問題であり、値上げを実施していると書いてありますが、具体的な%は書かれていません。原料高騰やそれに対する値上げについては明日以降の PPG や AKZO NOBEL にはしっかり数字で書かれていますので、ご紹介させてもらう予定です。明日は PPG の決算をご紹介します。